

ゆるふーⅧ

まなキキ・オンライン講読会

『主体性と真理』第2講

一九八一年一月二十一日「夢の分析と性的関係」他

2026年6月2日

M せんせい

■ 主体性と真理の関係についての問いと夢の問題

夢: 真理と主体性のあいだの関係についての問いのための戦略的地点

- ・ 覚醒によって解放されるこの幻影は、主体に対して彼自身がどのようなものであるのかという真理、その本性の真理、その状態の真理を、そしてその命運の真理をも述べる役目を持っている。
⇒ 多くの文化に繰り返し現れる観念
- 西洋の知の夢の問題との遭遇
 - いかにして真理(世界の真なる真理、対象の真理)が主体に到来することを認めることができるか、いかにして主体が真理を手に入れることに確信を持てるのか、いかにして主体が真理の真性を保持しえるのか
 - 夢ではないかという不確定性からの主体の解放が必要に
 - 17世紀のデカルト
 - 18-19世紀にかけての批判の時代は異なる形式に
 - いかにして主体自身の真理を認識できるのか、主体の真理とは何なのか、たとえ主体のなかで最も明らかに幻であるものを通じて、主体の最も秘されている真理は語られるのではないか

■ フーコーがとりあげるアルテミドロスによるテキストについて (P57, L8-)

① フーコーが研究するつむりの時代に関係するもの

- ・ 異教と呼ばれるものとキリスト教と呼ばれるものが出会い、交差し、対決し、互いの境界線を画定し、そしてとりわけ絡み合う時代
 - 紀元2世紀のテキスト

② フーコーが焦点を当てたい資料のタイプが生の技法である

- ・ 生の技法とは、自分の行動を律する技法、自分自身を手中に置く技法、自己のテクノロジー
 - 夢判断は、夢の幻影のなかに隠されているかもしれない真理の、小さなあるいは大きな部分を解読する方法
 - 自分の夢によって何をなすべきか、目覚めている時に、私たち自身の暗い部分であり、夜に光を放つこの部分について何をなすべきかを定義するある種のやり方
- 古代の夢判断は、ひとつの生きるやり方

③ アルテミドロスのプロフィール的な関心

- ・ アルテミドロスは哲学者でストア派の哲学に浸り切りながら、そして極端な場合には夢の理論化、夢判断の基礎の理論化を自認しつつ、夢の伝統的でいくぶん大衆的な解釈をなしていたものについて非常に多くの要素を示している
 - 当時の夢判断と夢を解釈する方法について民族学的な真の調査を行っている
 - テキストには、アルテミドロスが生きていた時代よりもさらに古い思想や道德の証言としての価値がある
 - テキストには、アルテミドロスが伝統に対して比較的新しい省察のような何かを示しており、道德やこれらの夢を通じて提起される生についてのさまざまな問題あるいは側面についての哲学的、ストア派的、理論的省察を試みている

④ テキストの題材

- ・ テキストは、ギリシア、ローマの文献群のなかで、ほぼ完全な性行動の、現実的、可能的、想像的等の性的諸関係についての完全な一覧表を示してくれる唯一の資料

■ アルテミドロスの夢の分析によって透かし見える評価の体系(P60, L8)

1. 夢に見られた性的行為の好ましさ／好ましくなさ:アルテミドロスの解釈のひとつの一般的原理を見出す、それは古い伝統を受け継いだもの
 - アルテミドロスがそれぞれの夢に与える意味それ自体によって、彼が話している性的諸行為の道德的配分や階層が見出せる可能性がある
2. アルテミドロスが異なる生的行為をまとめ、分類する方法のおかげで、とりわけ性的活動における大きな諸価値についての、一種の価値の階層構造、あるいは全体的配分を見出すことができる
 - アルテミドロスのテキストは、法的あるいは道德的なコードを直接的に表象しているのではない(性的行動を細かく管理する一般的な道德的コードという考えかたはキリスト教の歴史自体に現れたものにすぎない)

■ 夢の解釈の実際 (P62, L7-)

「夜の幻視」(夢)の二形式

エニユプニア(enupnia)	オネイロイ(oneiroi)
本来の意味での「夢」 主体の現在の状況、情動、情念、夢見る主体が夢を見ている瞬間の魂と身体の状態を表したもの 夢を見ている主体の現状を、一時的な状態を解読する診断的価値を持つもの	「夢想」 存在するもの(ト・オン)を示す 情動や主体の状態がそうでありうるものに、この状態あるいはこの情動がまさにそであるかもしれないあらゆる現実に対立する 存在するもの(ト・オン)について述べるという限りにおいて、魂に作用し、魂をそれらが予告する未来へと押しやる

- 夢は魂に真なるものを語りつつ、在るものについて語りつつ、それを引き寄せる使者

夢判断の二つの結果

エニユプニオン	オネイロス
医学的価値を持つ、魂と身体の状態の現れ	魂に在ること、真なるものを予告し、そこに向かって魂を引き寄せるこの何ものかが問題となる 予見的分析
すべてを明確に述べる夢 「定理的」な夢	これから起こることの直接的な表象ではない夢によって行われる 夢の解釈は、似ている事物を並べる

- 性的な夢は、社会的な生、政治的な生、家政的な生を予見する
 - ※ アルテミドロスの夢判断のすべてにおいて、夢見る人とはつねに大人の、家長であり、責任ある等々の男性
 - ※ 夢判断とは、人々が行動することを助けねばならない、また実際に助けている実践；よき家長にとって不可欠なこと

■ ギリシア語の多義性(家政的—性的意味の両義性) (P66, L4-)

ギリシア語	家政的意味	性的意味
ソーマ(身体)	ひとが所有する富や財産	性的関係を持つ身体
ウーシア(実体)	ひとが所有する富や財産の実体	人間存在の、生物の根本的実体としての精子
ブラベー(損害)	富の減少や金銭の損失 政治的キャリアの失敗	性的に攻撃されたという事実 性的関係において受動的であったということ
エルガステーリオン (作業場・娼館、売春宿)	債権者に対して、借金を返さなければならぬときのような制約	性交したい、精液の過剰から解放されたいという抗えない欲求をつよく感じている

- ギリシア人にとって、政敵活動と社会的活動一般のあいだの本性における類似
- ・ 私たちの夢判断においては、性的なものの隠喩であろうとするのはつねに社会的なもの
 - 性的なもの、あるいはとりわけ欲望と、社会的なものあいだに本性の非連続性が存在するという公準に基礎づけられる
 - 一方に他方の真理を言わせることができるには、原理の異質性と抑圧と変換のメカニズムが必要
- ・ しかし、アルテミドロスの夢判断においては発想が真逆で、性的な夢に対して、それが述べている政治的、家政的、社会的真理を問う
 - 社会的なものとの性的なものとの一種の連続性
 - 語の多義性が恒常的な交換機として役立つ

■ 性的な内容の夢の分類 (P68, 1-)

- アルテミドロスは三つの型の夢を区別

(1)法にかなう諸行為 (2)法に背く諸行為 (3)自然に反する諸行為

→ 二つの基準から三つのカテゴリーを引き出すことは、論理的に不可能
(自然にかなういくつかの事物も存在するはず)

- ・ 性的行為の分配の一般的な骨組みを構築するためにはかなり重要であるが、同時にそれらを定義する必要がないほどには重要ではなく、これこれの行為をこれこれの領域あるいは別の領域に厳密に分類する必要がないほどには重要ではない

● 分析の全体的な仕組み

- ・ 相手との性行為を、その相手を個人の将来の(家族、政治、社会等の)諸活動の象徴として考えなければならない; 他者の境遇こそが夢の予見的意味を決定する
 - 性行為の本性、その形式における性行為ではなく、何を行うかということでもそれほどなく、その女が誰であるか、その境遇は、その社会的地位はいかなるものか、社会的であるだけでなく性的にどのような相手にその女はなるのかを知ることが必要
- ・ 女性は職分を意味する

法にかなう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の妻:明らかに非常に好ましい <ul style="list-style-type: none"> - 妻を持つことは好ましいことであり、妻と性交することはこの利益、この社会的な特権あるいは利得、個人の地位の価値等に帰着し、それらすべてから快樂を引き出す ・ 妻が同意していないことを夢に見る:好ましくない <ul style="list-style-type: none"> - 富、財産、諸権利、自らの権限を主張するすべてのものが、私たちから逃げていくかもしれないことが示される ・ 内縁の妻;≡妻との夢 <ul style="list-style-type: none"> - 内縁の妻と婚姻した妻のあいだには最終的には非常にわずかな法的差異しかない ・ 娼館にいる夢:あまり良いものではない <ul style="list-style-type: none"> - 娼館に行くのは恥ずべき事、金銭の無駄な浪費、精液の浪費、娼館が墓地に似ている→死の徴 ・ 家中の者、奴隷との性的関係;明らかによい徴 <ul style="list-style-type: none"> - 夢見る者がその所有物、その財産から快樂、利益、全などを引き出すことができるだろうということだから - 本人がどれに対して能動的であるなら肯定的なしるしだが、受動的な場合は、ブラベ(損害、性的暴行、服従状態、隷従状態など)を被るだろう ・ 未婚女性が裕福な場合;好ましい ・ 未婚女性が裕福でない場合;好ましくない ・ 結婚している女性;悪いしるし <ul style="list-style-type: none"> - 既婚の女性は夫の権力の内にある ・ 男性と交わり、この男性に対して受動的な夢 <ul style="list-style-type: none"> :夢見る者が女性である場合、女性にとって明らかに利益 <ul style="list-style-type: none"> - 挿入されることが女性の本性であるため :夢見る者が男性である場合
-------	--

	→ 自分よりも年長でより裕福なものに少輔されていることは明らかに良い → 自分よりも年下でより貧しい場合は悪い
法に背く	近親相姦 - ここで問題となるノモス(法)とは、国家の法律ではなく、ある種の一般的原理 父とその子の1人:常に否定的 母と息子:いつも好ましい意味、父親の死 - 母親は職分を意味する <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事での利益を生み出す／政治的な性向／健康と長寿／豊作に恵まれる／訴訟に勝つ ・ 病気の時は、母なる大地に投げ出される⇒死にゆくことを示す
自然に反する	口唇性交 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神々との性的関係 ・ 動物との関係 ・ 死体との関係 ・ 自分自身と持ちうる関係 <ul style="list-style-type: none"> - 自分自身の身体とは、家に持っている者、奴隷を意味する - 問題となるのは自己挿入:明らかに不可能だからこそ自然に反する ・ 女性が女性同士で持ちうる関係 <ul style="list-style-type: none"> - 男性の特権そのものである挿入を篡奪している事実が自然に反する ➤ 自然性の主要な要素は挿入 <ul style="list-style-type: none"> - 挿入が存在する場合、相手がだれであろうと自然性のなかにある

- 性的な自然性の最も高位の形式としての挿入
- 各々の社会的位置に応じた性的関係の定義

- ・ 家族関係、男性の位置、家長の位置をめぐる完全に価値づけられるセクシュアリティという観念は、アルテミドロスによって提示される倫理のなかにすでに存在している
 - 社会的関係と性的関係は同じ型の、同じカテゴリーの現実であり、絶対的に連続的な倫理に基づいている
 - 社会的なものと性的なものは区別されていない
 - よいセクシュアリティを持つこと=社会的に承認されたセクシュアリティを持つこと

感想

フーコーがなぜ、このテキストをとりあげることにしたのか、という理由は、これまでの内容と併せて改めて整理されたような気がしたが、本文自体は、テキストの説明的なところに終始していたように感じた。ただ、アルテミドロスによる性的な夢の解釈が主観的な印象に依るわけではなく、一定の考え方に基づくものであることが示され、この時代においては、アルテミドロスがいうように理解することが自然であった、当時の“真理”がどのようなもので、それに基づいて理解がされていたということなのかな、と感じた。